

くまがや自治連だより

ひろば

第19号

平成28年1月発行



地域活動の 連携と絆

熊谷市自治会連合会副会長
岡部 宣明

新年明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は熊谷市内で発生した不幸な事件があり、防犯に対する自治会の意識向上と地域の絆を深める大切さを痛感いたしました。

私の地元自治会の活動を振り返ってみますと、地域環境整備の一環として、中学生・自治会・保護者等で各地域の公園、籠原駅南口周辺、神社等の清掃を行い、地域の人たち同士の交流を深めたことは意義あることと思ひます。

また、県の委嘱を受けて実施した防災教育を中心とした実践的安全教育事業においては、地震災害に備えて三尻地区の幼小・中学校と自治会が合同で避難訓練や炊き出し訓練を行いました。

このような一つひとつの活動の積み重ねが、地域内の信頼関係や協力関係を強くするのだと思ひます。本年も日頃より地域活動の連携と絆を大切に安心安全な明るい街づくりを目指して行きたいと思ひます。

◇中条自治会連合会◇

今井自治会長 内野 森一

私たちの中条地区は熊谷市の北東部に位置し、熊谷スポーツ文化公園の一部を含む地域です。以前は田んぼの中に古墳が点在し、上中条出土の武装男子の埴輪、馬の埴輪は国の重要文化財に指定され、東京国立博物館に収蔵されています。

また、中条の地名は奈良時代に始まる条里制に由来し、この地が古くから開けた地域であることを物語っています。上中条には平安時代の武蔵国司、中条常光の館跡である古刹常光院もあります。中条自治会連合会は小曾根、今井、川北、川南、大塚の五自治会で構成され、世帯数は1350世帯ほどとなっています。そして、中条小学校、中学校、公民館、長寿会などと連携し、安心・安全で明るい街づくりを目指し活動しています。

では、中条地区の行事、自治会活動を三つほど簡単に紹介させていただきます。

東京国立博物館蔵
Image:TNM Image Archives



上中条出土の馬の埴輪と武装男子の埴輪

爽やかな風、新緑が輝く中を歩く 春の「歩け歩け大会」



熊谷スポーツ文化公園の中を歩く

毎年春のゴールデンウィークの前半に行われるのが「歩け歩け大会」です。中条公民館をスタートし、熊谷スポーツ文化公園を経て公民館に戻る約7kmのコースを各自治会の旗を掲げて新緑が輝く公園の中を皆さん元気良く歩きます。

公民館に戻ると昼食タイムとなり、参加者には公民館の料理教室メンバーによる豚汁がふるまわれます。心地良い汗をかく「歩け歩け大会」です。

地域が一つになって盛り上がる 秋の「合同大運動会」

中条地区では小学校、中学校、地域が合同で秋の運動会を行っています。従来はくまがやドームで行っていましたが雪害で使用できなくなり、一昨年、昨年と中条中学校の校庭で開催しました。



市長を迎えての開会式
自治会役員はおそろいのブルーのTシャツ

(旧大字別) 対抗リレーです。5つの自治会別に生徒・大人の混成チームを作って走ります。各自治会の旗を振っての地元チームへの熱い応援、勝ったチームの歓声、拍手で大いに盛り上がって運動会は終幕となります。地域と学校、子供と大人が一体となる楽しい秋の一日です。

備えあれば憂いなし 冬の「防災訓練」

中条地区では運動会同様に小学校、中学校、地域が合同で防災訓練を行っています。

訓練当日は中条消防分団のサイレンが鳴り、住民は地域ごとに指定された第一避難場所に集まり、そこから自治会役員の先導で第二避難場所の中条小学校に移動します(一昨年は中学校)。

そこで自治会別に消火訓練、簡易担架での搬送訓練、心肺蘇生訓練などを行います。以前は東日本大震災の被災者の講演を行ったこともあります。

防災訓練を通して防災意識を高め、防災先進地区を目指していきます。



人体モデルを使っての心肺蘇生訓練



毛布を使っての搬送訓練

◇「つながり」のある

自治会活動を求めて◇

箱田宮本自治会長 松永 勲

箱田地域は、熊谷市役所の北側に位置し、成田堰用水で結ばれた地です。箱田宮本、箱田常盤、箱田神明町、箱田桜町の4自治会があり、それぞれ特徴のある活動をしています。

今回は、箱田宮本自治会の「つながり・ふれあい」を重点とした事業について紹介します。

当自治会は650を越える世帯で構成された大きな自治会です。したがって、月に1回実施する理事会で支部長との意思疎通を図り、地域との「つながり・ふれあい」のある自治会活動を推進することは不可欠であります。

環境美化活動(5月)

箱田水路で結ばれた当自治会では、多くの住民が一齐に、溝さらいや除草などに汗を流しながら「ゴミゼロ運動」を実施しました。

地域を愛する心を醸成し、近所とのつながりを強めた活動となりました。



敬老会(9月)

熊谷西小学校の体育館で、100名(敬老会対象239名)を超える高齢者の参加の下、敬老会

を実施しました。婦人部の方々により机上には生け花が添えられ、会場は華やかな雰囲気となりました。熊谷西小学校合唱部による見事な歌声が披露され、児童とともに口ずさんだり、折り紙の楊枝入れのプレゼントや敬老を祝う一言に涙したりする方々が多く見られました。児童と高齢者をつなぐ有意義な一日になりました。



三世代交流スポーツ大会(10月)

熊谷西小学校校区連絡会のまごころ運動箱田地区協議会35名のスタッフは、日常「防犯・見守り・登下校の交通安全」等の活動を行っています。スタッフと児童・家族の皆さんとが心が通い合うことを目的とし、箱田公民館



と共催して、三世代グラウンドゴルフ大会を実施しました。

スタッフの助言の下、励まし合いながらのプレーやホールインワンにハイタッチをしたり、休憩中に近所の方々と雑談したりする光景を見ることができました。心と心のふれあいが見えた貴重な交流の場となりました。また、校区連絡会・公民館などの関係機関と連携を図ることの大切さを実感する活動でした。

自主防災訓練(3月)

熊谷市消防団中央分団の隊員の協力を得て、自主防災訓練を箱田第4公園で実施しました。早朝からの炊き出しから始まり、初期消火訓練・心肺蘇生法・AEDや三角巾の活用、応急措置等の実習が行われます。最後に、消防団による放水の実演には大きな歓声が上がりました。

安心・安全な街づくりには、「人と人とのつながり」や「地域の支え合い」を深めることが大切です。その意味で、この自主防災訓練は効果的でありました。



◇玉井中央自治会◇

会長 秋田 剛

玉井中央自治会は、JR籠原駅の北東1.5キロメートルに位置する住宅団地で、400余の世帯で構成されており。



この地域は、熊谷市の区画整理事業の一環として造成され、昭和45年度から宅地分譲がはじまり、昭和46年度に自治会が結成されました。団地内には、団地の完成を記念するモニュメントが市によって設置され、地域のシンボルとなっております。

ほぼ同じ時期に住宅を建設し、入居されている関係で、自治会を構成する多くの会員が同じような世代で、他の地域にみられる少子高齢化が一段と進んでおります。一例をあげると、今年度の敬老会の対象者が200名を超す一方、小学生の児童は50名に満たない状況です。

このような組織の実態ではありますが、これまで諸先輩が築いてこられた優れた事業を、会員の知恵と工夫のもとに継続発展に努めております。これらの事業の中から代表的な取組について報告させていただきます。

環境美化の取組

玉井中央自治会には定例清掃日があり、毎月第3日曜日の午前8時から、団地内の緑地帯及び公園を会員総出で清掃しています。

団地の中央を南北500メートルにわたり電力会社の特別高圧送電線があり、その電線の下部の1万平方メートルを公園及び緑地帯として市が整備しました。

自治会がこれらの緑地帯等の環境美化活動を実施して、すでに40数年の歴史がありますが、現在はその市の公園サポーター制度のもとで、自治会の重要な事業として推進しております。昭和54年には、当時の建設大臣から都市公園の緑化、美化に貢献したとして感謝状が贈られております。また、これらの事業を通じて会員相互の交流が深まり、コミュニケーションを図る場としても役立っております。



交流活動推進の取組

43回を迎えた平成27年度の納涼盆踊り大会は、2日間にわたり地域の内外から1000名を超す

お客様にお越しいただき、盛大に行われ、皆様の交流を促進する目的を達成いたしました。

新興住宅街の当地域には、昔からのお祭りがありません。納涼盆踊り大会は地域内外の皆様と交流を図る活動の場として、自治会最大のイベントとなり、継続されております。



宣伝活動の取組

玉井中央自治会では、毎月全会員に配布される自治会だよりの発行と自治会ホームページの更新を行っております。

自治会だよりは、自治会活動の内容を会員にお知らせするほか、会員から自治会に対する要望等を掲載するなど、会員相互の交流に役立っております。



平成27年度県外研修

10月15日～16日、全自治会長を対象とした県外研修を千葉県習志野市と旭市で実施しました。今年度のテーマは「習志野市の先進的な自主防災活動と旭市の震災からの復興状況に学ぶ」でした。研修の概要は以下のとおりです。詳細につきましては、市ホームページでも公開しています。

(<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kurashi/shimin/jichi/jichikairengou/kengaikensyu/>)

I 自主防災組織の現状について

(習志野市危機管理監 太田 清彦 様)

熊谷市と習志野市はよく似ている部分がありますが、先進的な取組を取り入れる場合、取り入れようとする側の環境によって、うまく取り入れられる部分とそうでない部分があります。重要なのは本質を理解することです。本大久保ホームタウン自主防災会の講演でも、取組の本質に注目していただきたいと思います。

習志野市では、まずは自助が重要であると市民の皆さんに伝えていきます。災害発生から時間が経てば共助・公助を期待できますが、災害発生直後に行政ができることは限られています。災害から身を守るには、まずは自分自身が備えないとどうしようもないのです。地域がまとまって何かをしないと助からないのです。

将来関東で大きな地震が発生することは、すでに皆さんが理解していることだと思います。皆さんは準備をしていますが、準備をしていないことは、いざという時にはできません。今日の講演をヒントに、何か自分たちでできる準備を見つけてほしいと思います。



II ITを活用した災害に強いまちづくり

(本大久保ホームタウン自治会自主防災会 副会長 徳野 勤 様
同 企画部長 川谷 聡 様)

本大久保ホームタウンは420世帯余りで構成される一戸建て団地です。自治会が発足したのは平成3年、自主防災組織が発足したのは平成10年です。自主防災組織の結成から10年後、自治会役員とは別の専任制自主防災会を組織しました。当自主防災会の特徴は、防災センターの設置とITの活用です。防災センターは、災害時に自治会館内に設置し、情報収集や各ブロックの支援拠点となります。また、ITの活用で、迅速・正確な情報の収集と発信が可能となります。

しかし、防災の仕組みを作っただけでは、災害時に機能しません。当自主防災会では、役員向けには、災害時を想定した簡易無線機やメーリングリストの使用訓練を実施するとともに、住民向けには、防災IT講習会、防災訓練(市の総合防災訓練と同時実施)等を繰り返し実施し、防災意識の向上と知識の定着を図っています。この他にも、火災対策や集中豪雨対策にも取り組んでいます。

平成26年には、ITを活用した自主防災活動を評価していただき、防災まちづくり大賞をはじめとする4つの表彰を受けました。しかし、ITはあくまで手段です。これを活用するためには、組織・体制の構築と実践的な訓練、啓発・普及活動を通じた全住民の意識向上が欠かせません。訓練以上のことは本番ではできません。今後も工夫を重ね、安心して暮らせる街づくりを目指します。

III 旭市東日本大震災後の復興状況について

(旭市総務課主査 江戸 義尚 様)

旭市は東日本大震災で甚大な被害を受け、16名の方が犠牲になりました。津波により380haの土地が浸水、液状化現象も発生し、多くの住宅が被害を受けました。しかし、震災後、天皇皇后両陛下をはじめ、多くの方がお見舞いに訪れ、全国から励ましの言葉や義援金も届き、被災者それぞれが勇気づけられました。また、震災で発生した瓦礫の処理等、県内の市町村に協力をいただきました。

このような大災害を経験して、旭市は災害に強い地域づくりを進めています。津波対策として、防潮堤のかさ上げ、津波避難ビルの指定、津波避難タワーの整備を行いました。また、災害発生時の情報伝達の方法についても、全世帯への戸別受信機の配布、高性能スピーカーやデジタルサイネージの整備、津波警報等と小学校の校内放送との連動など、様々な取組を実施しています。旭市は、復興への歩みを着実に進めています。



<第5回親睦グラウンド・ゴルフ大会>

10月28日(水)、熊谷スポーツ文化公園内グラウンド・ゴルフ場において、第5回親睦グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。今年度は自治会長同士のさらなる交流の促進を目的に、ランダムでチームを編成し、競技を実施しました。当日は好天に恵まれ、今まで交流の機会がなかった自治会長同士の新しいつながりが生まれました。



平成28年1月発行
くまがや自治連だより

平成27年度市長との懇談会

11月6日(金)、熊谷市緑化センター研修室において、市長との懇談会を開催しました。小林芳雄総務部会長があいさつを述べた後、「安心安全な街づくり」と「ラグビーW杯開催に向けた取組」をテーマに市長と懇談し、活発な意見交換が行われました。



訃報

謹んでお悔やみ申し上げますと
共にご冥福をお祈り申し上げます。

- ◆海老原 武雄さん 熊谷市自治会連合会副会長
- 肥塚自治会連合会長
- 熊谷グリーンタウン自治会長
- 平成27年8月5日逝去

<お詫びと訂正>

「ひろば」第18号2ページ自治会長紹介の中で、氏名の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

【誤】

銀座四丁目自治会 大石 廣正

【正】

銀座四丁目自治会 大石 廣世

編集後記

昨年は市内で過去に例のない痛ましい事件が発生してしまい、6人もの尊い命が奪われました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、防犯のまちづくりの必要性を感じたところでした。また、事件後多くの皆様にご署名をいただきましたことを御礼申し上げます。
安心して暮らせる社会の実現は、地域の願いであり、生活の基盤であります。地域コミュニティ意識の希薄化、空き地・空き家の増加など地域の課題は多岐にわたりますが、既に多くの自治会で防犯パトロール、子どもの見守り活動、地域内の交流活動等を実施しております。犯罪を未然に防ぐには、これらの地道な活動を継続していくことが必要です。
今号においても各自治会の地域に根ざした活動を紹介していただきました。ご寄稿いただきました皆様に感謝申し上げます。ご発展を心より祈念いたします。

熊谷市自治会連合会副会長

野口

幸雄

ひろば 第19号

発行 熊谷市自治会連合会